

明治

G・GH・Y形空冷式

— エアコンプレッサ —

取 扱 説 明 書

形 式 GN-08D・GH-08D・GND-08C
GH-15・GH-22
Y-08・Y-15・Y-22



当製品を安全に、また正しくお使いいただく
ために必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も必ず保存してください。

株式会社 明 治 機 械 製 作 所

压力换算表

kgf/cm ²	MPa
0.2	0.02
2	0.20
3	0.29
4	0.39
5	0.49
5.5	0.54
6	0.59
7	0.69
7.7	0.76
8	0.78
8.5	0.83
9	0.88
9.3	0.91
10	0.98
11	1.08
12	1.18
14	1.37
15	1.47
17	1.67
20	1.96
22	2.16
25	2.45
27.5	2.70
30	2.94
45	4.41
48	4.70
50	4.90

この度は、明治の空冷式エアコンプレッサをお買い上げいただき、ありがとうございます。

はじめに

- この取扱説明書は、空冷式エアコンプレッサの取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。
ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ正しくお取扱いただき、最良の状態でご使用ください。
- お読みになった後も、必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与又は譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失又は損傷された場合、また警告ラベルが破損・剥離・退色して見えにくくなったら速やかに当社又は当社の指定サービス店・特約店・販売店にご注文ください。
- 尚、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容及び写真・イラストなどの一部が本製品と一致しない場合がありますのでご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買上げまたお近くの指定サービス店・特約店・販売店にお問合せください。

-  印付きの下記マークは、安全上特に重要な項目ですので、必ずお守りください。



危険

適切な事前注意を払わなかった場合に、死亡や重大な傷害が生じる危険性が極めて大きいことを示します。



警告

適切な事前注意を払わなかった場合に、死亡や重大な傷害が生じる危険が存在することを示します。



注意

安全な取扱に対する助言、あるいは適切な事前注意を払わなかった場合に、傷害または製品の重大な破損に至る可能性があることを示します。

目 次

安全に使用していただくために必ず守っていただきたいこと	2
-----------------------------	---

設置にあたっての注意事項	3
--------------	---

各部の名称とその働き	5
------------	---

お使いになる前に	9
----------	---

運転のしかた	11
1. 始動 …………… 11	2. 停止 …………… 13
3. 停電したときは …………… 14	

定期の点検・調整について	15
1. 吸込ろ過器 …… 15	2. Vベルト …… 15
3. アンロードパイロット弁 …………… 16	
4. 圧カスイッチ …………… 16	
5. 安全弁 …………… 17	

定期点検基準表	19
---------	----

不 調 診 断	20
---------	----

仕 様	23
-----	----

サービスと保証について	24
-------------	----

安全に使用していただくために必ず守って いただきたいこと



警告

- 屋外など、第三者（子供・一般の人々）が立ちいる場所で使用する時、監督者が注意を払えない場合には、代行者を置くか、防護柵を設けるか安全上必要な処置を行ってください。
- 本機で圧縮した圧縮空気は、人の呼吸用や人体には使用できません。
呼吸用・人体に使用すると呼吸困難・呼吸障害をおこし、死亡の原因となります。
- 運転中・運転直後は、コンプレッサのシリンダ・シリンダカバー・接続管は高温になっていますので、手など触れないでください。
手など触れますとやけどの原因となります。
- ベルトガードを外して運転しないでください。
回転部に、手や衣服が巻き込まれて非常に危険です。
- 運転中はプリー・Vベルトに手指等を、近づけないでください。
回転部に巻き込まれると重大な事故を起こす危険性があります。
- 引火性のあるガス・爆発性の可燃物（アセチレン・プロパン・シンナー・ガソリン・塗料等）のない場所に設置してください。
もし使用して事故が発生すると、人身・建造物に重大な損害を与えます。
- 点検整備する時は、必ず電源を「切」にし、「整備中」であることを明らかにして空気タンクの圧力をゼロにするため、空気弁又はドレン弁を開けてください。

本機を清掃・点検・整備する時は、必ず電源を「切」にし、「整備中」であることを明らかにして作業には行ってください。回転部に、手や衣服が巻き込まれたり、感電の恐れがあり大変危険です。又、圧力があるにもかかわらず、圧力計などの加圧部を交換しようとするとその部品が飛び、ケガ・建造物の破損の可能性があります。



●作業前・作業後に必ず点検を！

本機を使用する前に必ず始業点検を行い、異常個所は直ちに整備してから作業を始めてください。また、作業終了時も点検を行って異常がないかチェックして下さい。

●設置場所は、清潔で室内温度が 0～40℃の範囲でご使用ください。

1. 鉄粉・粉じん・木くず・砂じんなどのない清潔な空気が、吸入でき、十分に圧縮機が冷却できるよう壁より 30cm 以上離し、風通しの良い場所に設置してください。

室温は、運転中に 40℃を超えないよう、換気扇などを設け、40℃以下になるようにしてください。

2. 充分強度のある水平な床に設置してください。

3. 輸送時の台木は外して運転してください。本機の損傷の原因となります。

●湿気が少なく、雨などの水滴のかからない場所で運転して下さい。

錆の発生は勿論、潤滑油の劣化・モータのショート・感電の恐れがあります。

●コンプレッサを運転中、停電があったら必ず電気を切って圧縮空気を放出して空気タンクの圧力をゼロにして下さい。

モータ損傷の原因となります。

設置にあたっての注意事項

騒音規制法、振動規制法による届け出について

- 届け出は工事開始前 30 日までに工事所在地の市町村役場の公害担当窓口に出しなればなりません。

- 騒音規制法及び振動規制法により指定地域内（指定区域内は市町村により指定されている）における工事又は事業所に特定施設（コンプレッサの原動機出力が 7.5kW 以上で台座が固定しているもの）を設置する場合、届け出が必要です。

詳細な点は各都道府県により異なりますので、用紙の請求及び問合せは各市町村の担当課にお問合せください。

設置報告の届け出について

■平成 2 年 9 月 13 日の官報で労働安全衛生法のボイラ及び圧力容器安全規則の一部が改正され、所轄労働基準監督署長への第二種圧力容器設置届け出の義務はなくなりました。

ただし、圧力容器の取り扱い及び圧力容器明細書の保管などについては、従来通りですので、大切に保管する必要があります。

■第二種圧力容器の定期自主検査について

圧力容器明細書（0.2MPa 以上で内容積 40L 以上の容器）が添付されている製品の空気タンクは第二種圧力容器に該当しますので必ず次のことを守ってください。

1. 安全弁は、最高使用圧力以下で作動するように調整しておくこと。
2. 圧力計の目盛は、最高使用圧力を示す部位に見やすいように赤で表示しておくこと
3. 毎年 1 回以上、次の事項について定期自主点検を行ってその結果を記録し、3 年間保存しておくこと。
 - 1) 本体の損傷の有無
 - 2) ふたの締め付けボルトの摩耗の有無
 - 3) 管及び弁の損傷の有無

第二種圧力容器自主検査点検記録

書式例

検査年月日 年 月 日		検査者氏名		事業者印
検査項目及び点検事項		異 常	状 態 と 措 置	
		有 無		
本体の損傷	1. 胴・鏡板			
	2. 安全弁			
	3. 圧力計			
ふたの締め付けボルト摩耗				
管 及 び 弁 の 損 傷				

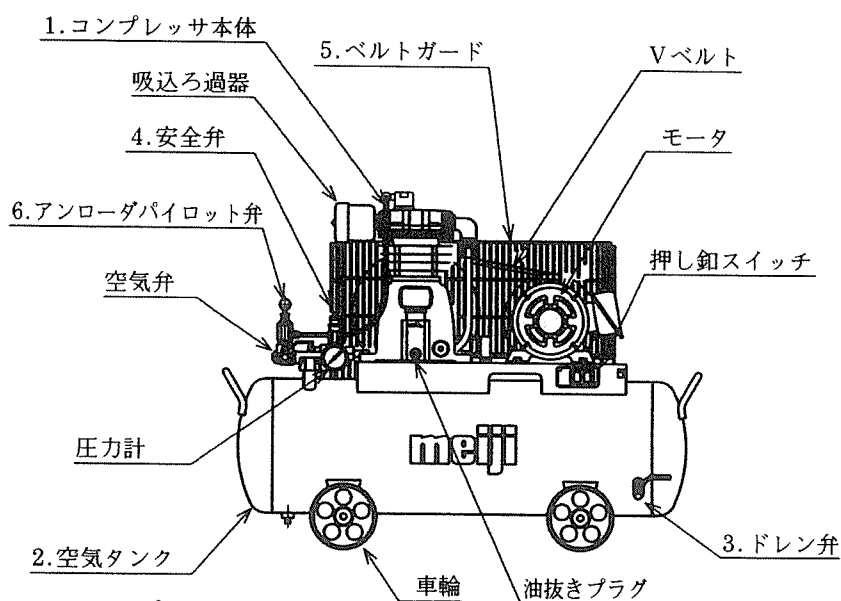
前記の各項は「労働安全衛生法」に定められており、違反のないよう十分ご注意下さるようお願い致します。

各部の名称とそのはたらき

■GN 型（アンローダ形コンプレッサ）

圧力が 0.98MPa まで上昇すると圧縮運転をやめ、0.78MPa まで圧力が下がると自動的に圧縮状態に切り替わります。

電源を切らない限り、モータは回転し続けているコンプレッサです。



1. GNO 形 コンプレッサ本体

圧縮空気を製造する本体です。

2. 空気タンク

コンプレッサ本体で製造された圧縮空気を貯蓄する容器です。

3. ドレン弁

空気タンク内に溜まった水・油・錆等を排出させる弁です。

4. 安全弁

空気タンクの圧力が規定圧力 1.08MPa になると作動してモータの損傷、空気タンクの破裂を防止する安全装置です。

5. ベルトガード

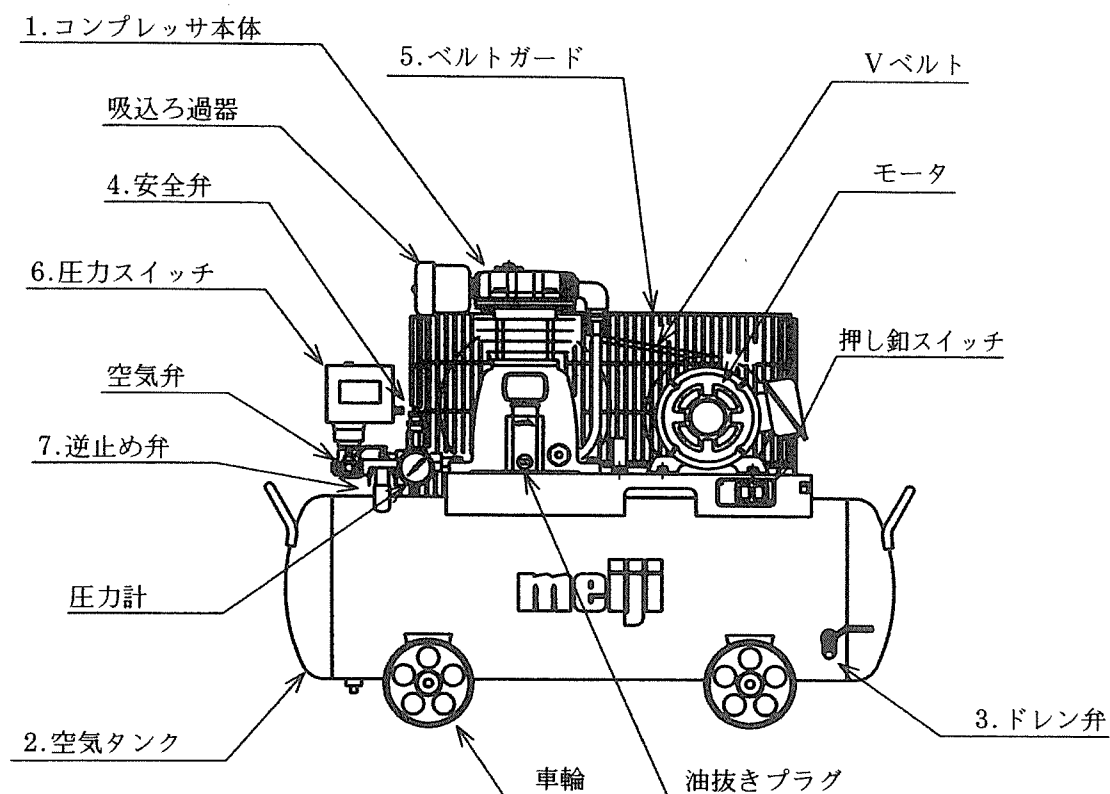
プーリや V ベルト等の回転部を保護し衣服の巻き込みによるけが等を防ぎます。

6. GUP-10 アンローダパイロット弁

空気タンク圧力が 0.98MPa まで上昇すると自動的に無圧縮運転にさせ 0.78MPa まで圧力が下がると圧縮運転に切り替える装置です。

■GH 形（圧力スイッチ形コンプレッサ）

圧力が 0.98MPa まで上昇するとモータが自動的に停止し、0.78MPa まで下がると自動的にモータが回転し圧縮運転を始めるコンプレッサです。



1～5 は GN 形コンプレッサを参照してください。

6. 圧力スイッチ

空気タンク圧力が 0.98MPa まで上昇すると自動的にモータの運転を停止させ、0.78MPa まで圧力が下がると自動的にモータの運転をさせる装置です。

7. 逆止め弁

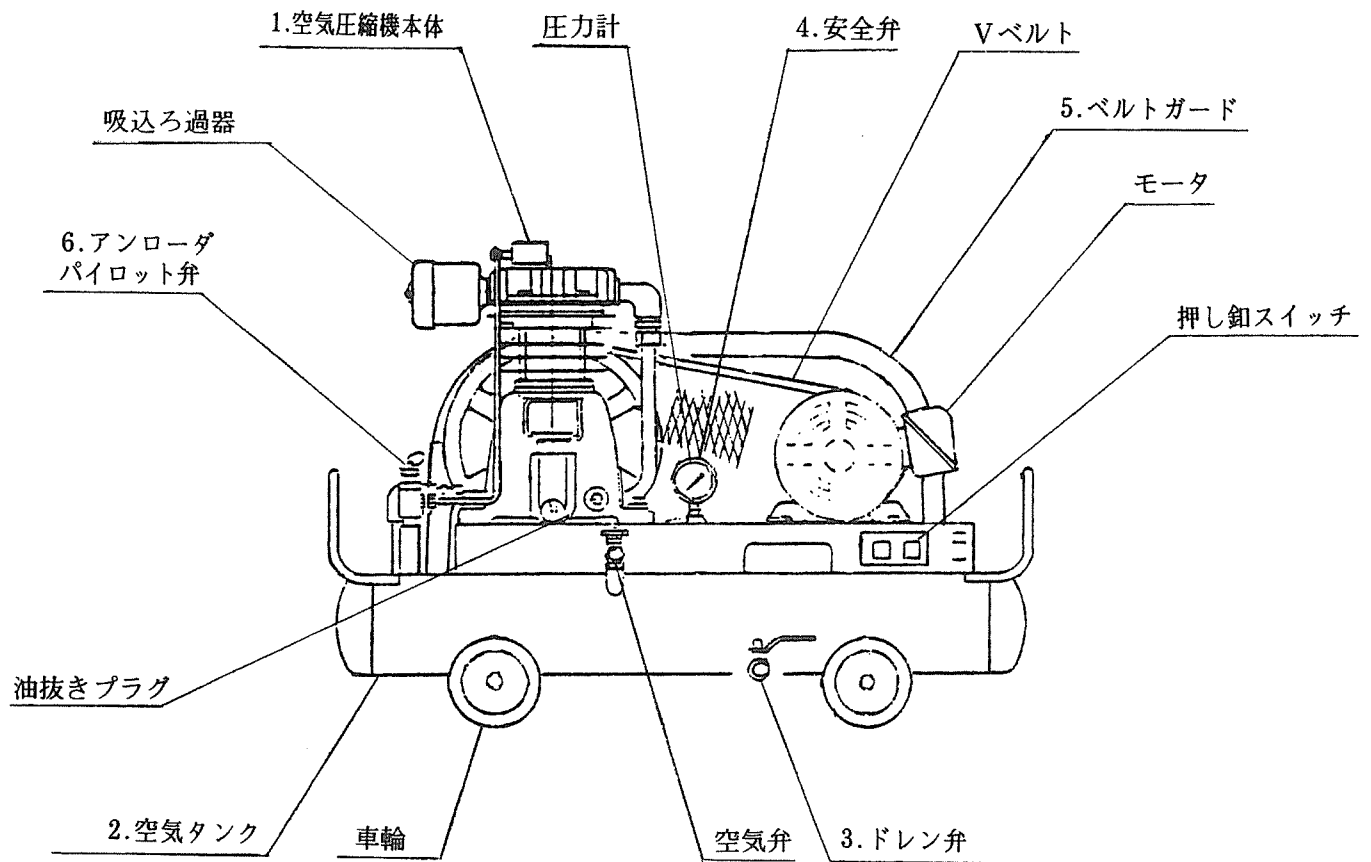
圧力スイッチが働いてモータが停止し、次にモータが運転されるとき運転しやすくする装置です。

また、空気タンクの圧縮空気の逆流を止めます。

■GND 形（アンローダ形コンプレッサ）

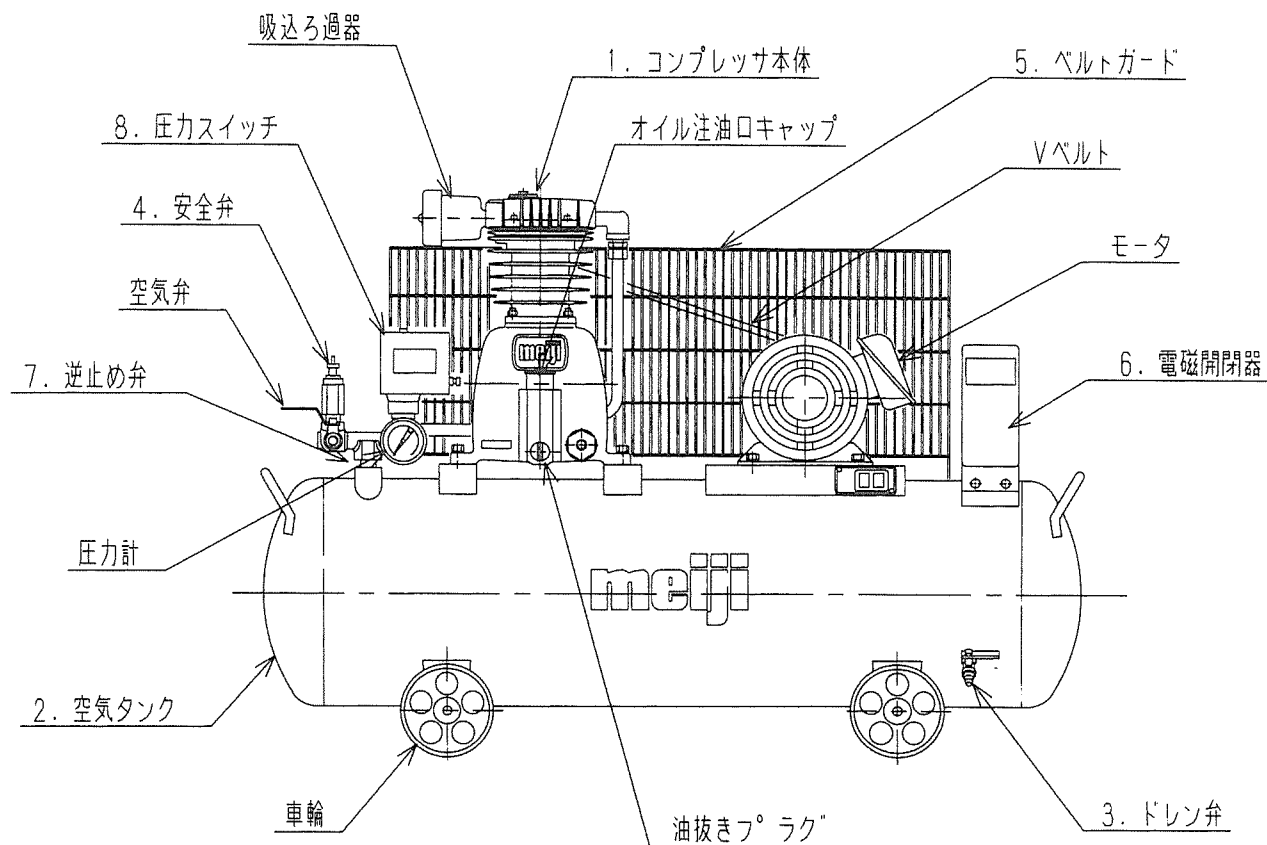
圧力が 0.69MPa まで上昇すると圧縮運転をやめ、0.59MPa まで圧力が下がると自動的に圧縮状態に切り替わります。

電源を切らない限り、モータは回転し続けているコンプレッサです。



1～6 は GN 形空気圧縮機を参照してください。

■GH・Y形（圧力スイッチ形コンプレッサ）



1～5 は GN 形コンプレッサを参照してください。

6. 電磁開閉器

過電流が流れるのを防止し、モータを損傷から守る装置です。

7. 逆止め弁

空気タンクに溜めた圧縮空気を漏らさない装置です。

8. 圧力スイッチ

空気タンク圧力が 0.98MPa まで上昇すると自動的にモータの運転を停止させ、0.78MPa まで下がると自動的にモータの運転をさせる装置です。

お使いになる前に

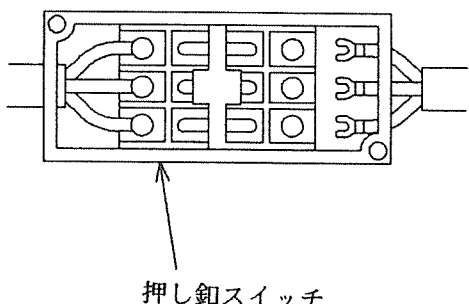
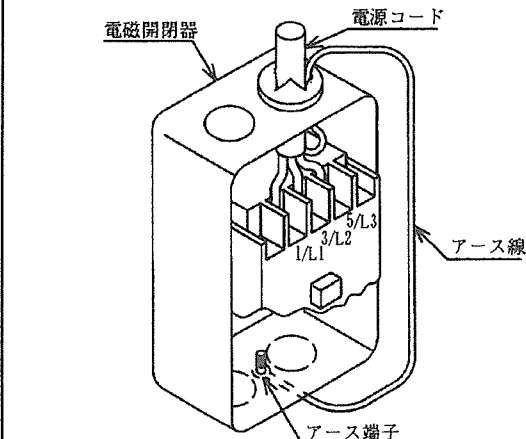
●電気工事は電気設備基準及び内線規定にしたがっておこなってください。

電源は必ず元電源とコンプレッサの間に手元ヒューズ又はモータブレーカを1台ごと設けてください。

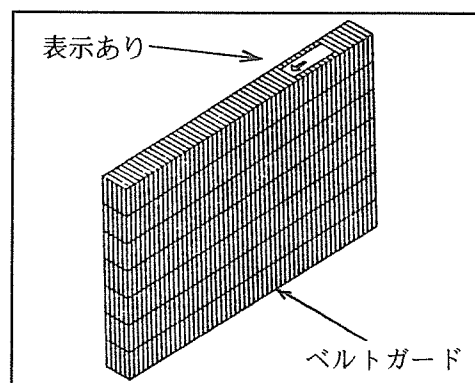
配線参考資料

形 式	出 力 (kW)	電 源 (V)	配 線 容 量 mm(mm)		手元ヒューズ	モータブレーカ
			電源コード太さ	アース線太さ	容 量(A)	定格電流(A)
GN-08D	0.75	単相100V	2.0(3.5)	1.6(2.0)	30	12
GH-08D		単相200V	1.6 (2.0)		15	6
GND-08C		3相200V				4.2
GH-15 Y-15	3相200V	7.4				
GH-22 Y-22		2.2			20	10

●電磁開閉器に電源コードを配線してください。

GN形 (GN-08D・GND-08C) GH形 (GH-08D)  押し釦スイッチ スイッチのカバーを外して下さい。 次に接続端子に電源コードを接続して下さい。	GH形 (GH-15・GH-22) Y形 (Y-15・Y-22)  電磁開閉器 電源コード アース線 アース端子 電磁開閉器のカバーを外して下さい。 次に1/L1・3/L2・5/L3に電源コードを接続してください。
---	---

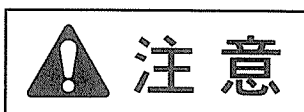
- ・電源コード4芯を使用し、感電防止のためアースを必ずとって下さい。
- ・配線後、回転方向を確認してください。
ベルトガード側から見て左回転です。
逆回転した場合は、電源コード3本のうち2本を入れ換えてください。そのまま逆回転で使用しますと空気圧縮機の焼付の原因となります。





前項に示されている以外の細いコードを使用されますと、モータの損傷の原因となります。また、コードが発火し家屋等の火事になる原因にもなります。

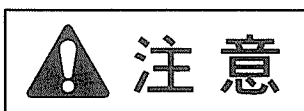
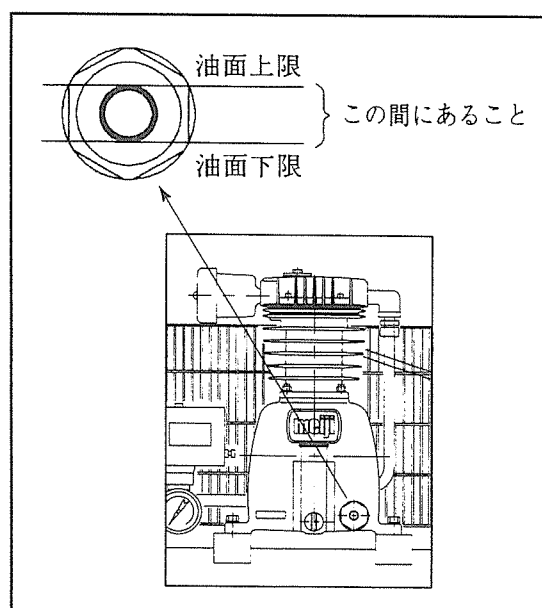
電気事情の悪い場所、配線が長くなる場所は、お買い求めになった販売店にご相談下さい。



元電源は規定電圧・規定周波数で必ず使用してください。規定値以外で使用すると、起動不良やモータの損傷などの原因となります。

配線が細い・長すぎる場合、電圧降下が大きくなり、圧縮機が回転しない場合があります。

- 潤滑油は作業前、作業後に必ず点検を
潤滑油は作業前、作業後に必ず点検を行い油面計の赤丸の間にあるように補給又は交換して下さい。



明治純正の潤滑油又は指定潤滑油を使用してください。それ以外の潤滑油を使用されますと、オイルアップ・オイルアップによるカーボンの蓄積・カーボンの発火また摺動部の焼き付きなどが発生しやすく大きな事故の原因となります。

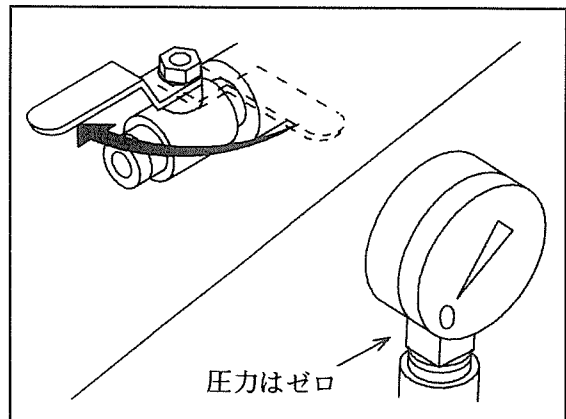
明治純正コンプレッサオイル CO1-68

※1L・4L・20L 缶があります。

運転のしかた

1. 始 動 GN・GH 形

- (1) 空気タンクの圧力をゼロにするため
空気弁又はドレン弁を開けて下さい。
- (2) 電源スイッチをいれてコンプレッサ
を始動させてください。
- (3) コンプレッサの暖機運転を十分行
なった後、空気弁又はドレン弁を閉
じて空気タンクの圧力を上げてくだ
さい。

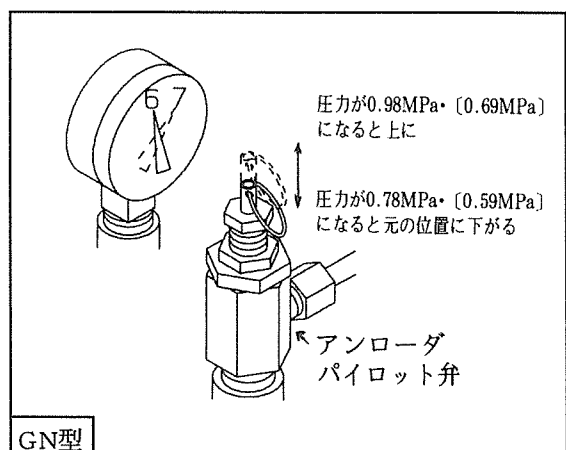


- (4) 圧力が徐々に上がり

GN 形は 0.98MPa・GND 形は 0.69MPa
になるとアンロードパイロット弁が
自動的に作動し、圧縮運転をやめま
す。

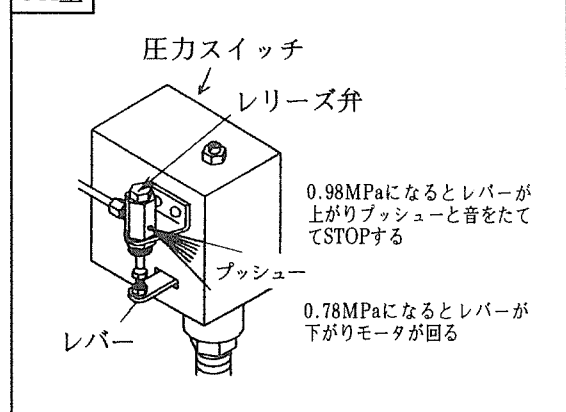
それでも依然として、モータは回転
しています。

0.78MPa・0.59MPa まで圧力が下が
ると自動的に圧縮運転に切り換わり
ます。GH 形は 0.98MPa になると圧
力スイッチが自動的に作動しモータ
が停止します。0.78MPa まで圧力が
下がると自動的にスイッチが作動
し、圧縮運転を始めます。



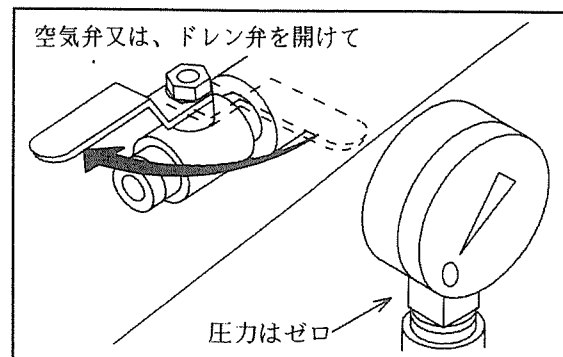
GN型

GH型

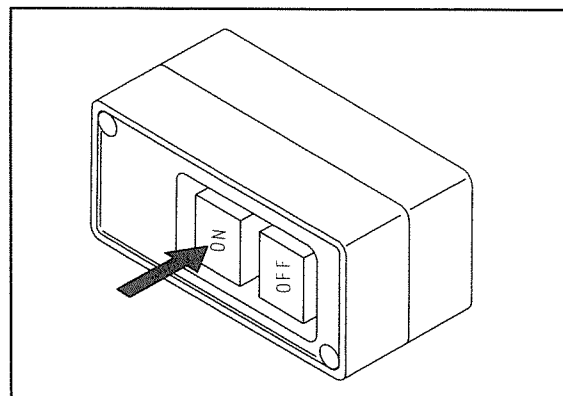


1. 始 動 Y 形

- (1) 空気タンクの圧力をゼロにするため
空気弁又はドレン弁を開けて下さい。



- (2) 押し釦スイッチを「ON」にする



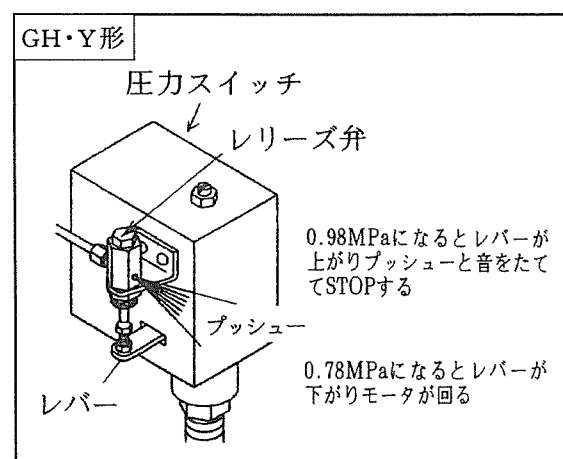
- (3) コンプレッサの暖機運転を十分行った後空気弁又はドレン弁を閉じて空気
タンクの圧力をあげて下さい。

- (4) 圧力が徐々に上がり

0.98MPa になると圧力スイッチが自動的に作動しモータが停止します。

止まる時リリース弁から圧縮空気が放出されるため、瞬間排出音がします。

0.78MPa まで圧力が下ると自動的にスイッチが作動し、圧縮運転を始めます。



危険

安全弁は必ず規定圧力内で吹き出すよう定期点検を怠らないで下さい。

【GND 形－0.76MPa】

【GN・GH・Y 形－1.08MPa】

モータの損傷だけでなく、空気タンクの破裂につながり重大なケガ・死亡の原因となります。

注意

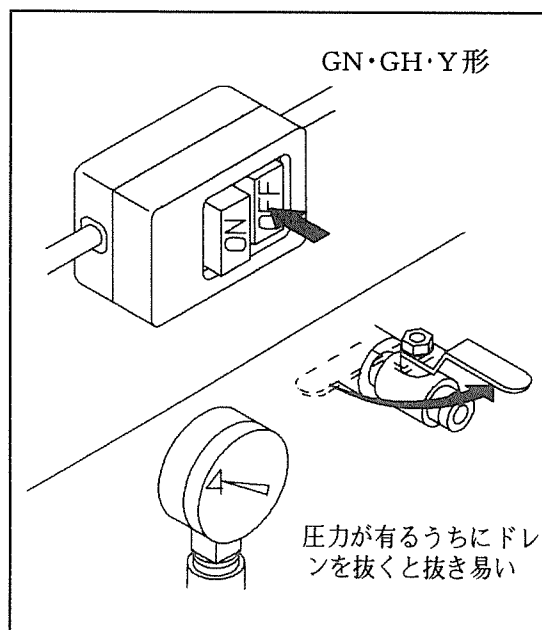
アンロードパイロット弁が 0.98MPa [0.69MPa] になっても作動しない、圧力スイッチが作動せず 0.98MPa になってもモータが停止しない・それ以上に圧力が上昇する。このような場合は、0.69,0.98MPa 以下で作動するように調整して下さい。モータの損傷の原因となります。（調整方法は P16～P18 を参照してください。）

2. 停止

- (1) 電源スイッチ又は、押し釦スイッチを「OFF」にしてください。

★スイッチを切る場合、コンプレッサがアンロード又は、停止している時に切ると電磁開閉器の保護になります。

- (2) 安全の為主電源を切して下さい。
- (3) 空気タンクの圧力がゼロにならないうちに、ドレン弁を開放してドレンと圧縮空気を排出してください。



警告

ドレン弁を開ける時は、まわりに人がいない事を確認し、徐々に開けて下さい。急に開けるとドレンがいきに出て危険です。

ドレン弁を開けてドレンを排出中はドレン弁の前に手を出さないでください。異物（錆び等）が飛び出しけがをすることがあります。

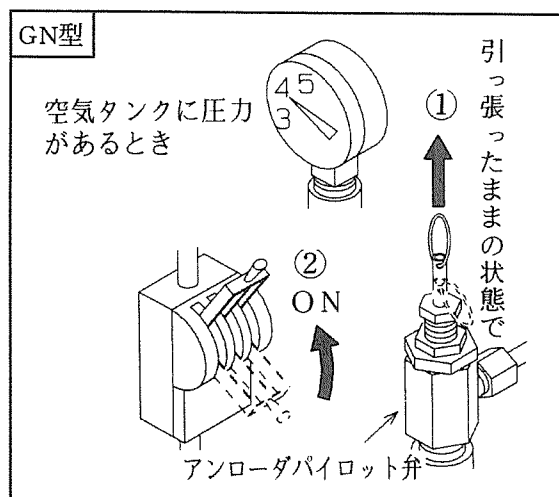
空気タンクに圧力があるときの電源スイッチの入れかた

停電したときは

電源を切る・空気タンクの圧力をゼロにすることを励行してください。

やむ得ず、圧力があるうちに電源をいれたいときは、次の要領でおこなってください。これを怠るとモータの損傷の原因になります。

GN 形又は、GND 形はアンローダパイロット弁のリングを引き上げて、モータが回り始めたらリングを離してください。



GH・Y 形

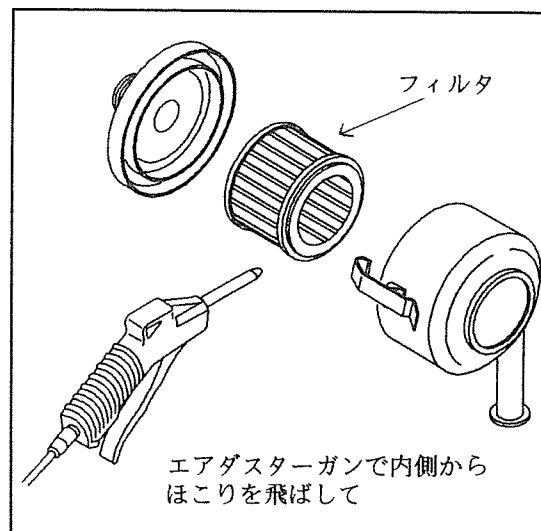
空気タンクに圧力があるときは、タンクの圧力をゼロにしてから電源のスイッチを入れてください。

定期の点検・調整について

1. 吸込ろ過器

エアクリーナは、一定の空気量を吐き出させるために、フィルタを常に清潔な状態に保ってください。

軽くたたく又は、圧縮空気ではこりを飛ばして、フィルタを清潔にしてください。きれいにならないときは交換してください。



警告

エアダスターガンを使用して清掃する時は、保護眼鏡を使用してください。使用しないと目にゴミなどが入る事があります。

エアダスターガンは人に向けないでください。怪我をする事があります。



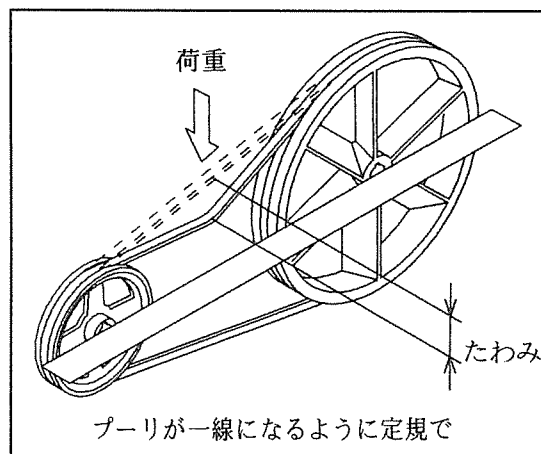
注意

フィルタを清掃しないで運転を続けていると、オイルアップが激しくなり、コンプレッサの損傷の原因となります。

2. Vベルト

Vベルトの張りがゆるいと、Vベルトがスリップしてコンプレッサの性能を十分に発揮させることができません。

また、Vベルトの寿命も短くなり振動の原因になります。あまり強く張りすぎないようにVベルトを張ってください。



A ベ ル ト	適 用 機 種	たわみ 荷 重 (N)		たわみ量 (mm)
		新品ベルト	張り直し	
	GN-08D・GH-08D・GND-08C	40.0～45.0	35.0	10
	GH-15・Y-15	30.0～35.0	30.0	
	GH-22・Y-22	20.0～25.0	20.0	

3. アンローダパイロット弁

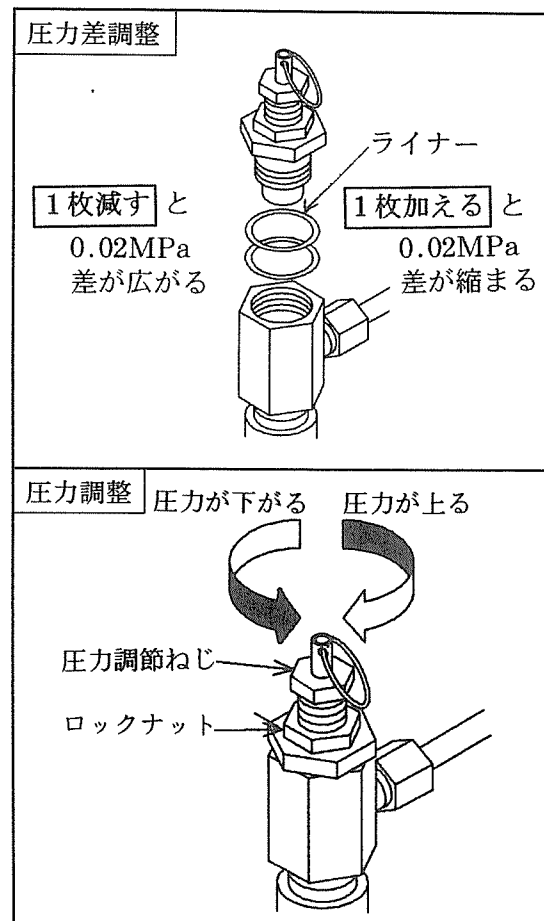
圧力を一定の範囲で保つ弁です。

0.98MPa・[0.69MPa] で圧力上昇が停止し、0.78MPa・[0.59MPa] に下がると圧力上昇を始める。この繰り返し運転ができず 0.2MPa・[0.1MPa] の圧力差がないときは、ライナーを抜いてください。

逆に 0.2MPa・[0.1MPa] 以上圧力差があるときはライナーを加えてください。

0.98MPa・[0.69MPa] になっても圧力上昇が停止しないときは、ロックナットを緩めて圧力調節ねじを左に回して圧力を下げてください。

0.98MPa・[0.69MPa] 以下で圧力上昇が停止するときは、右に回して圧力を上げてください。



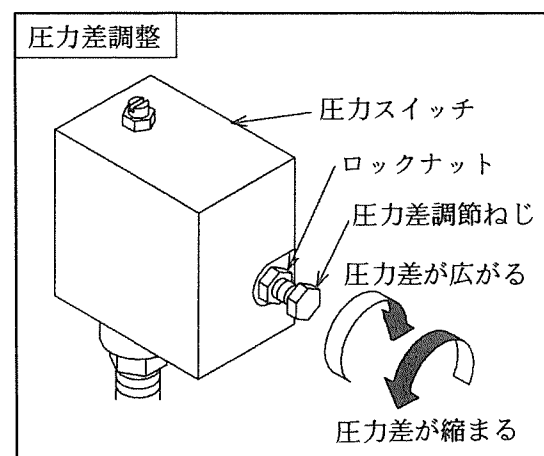
注意

0.98MPa・[0.69MPa] 以上で運転しないでください。
モータ損傷の原因となります。

4. 圧力スイッチ

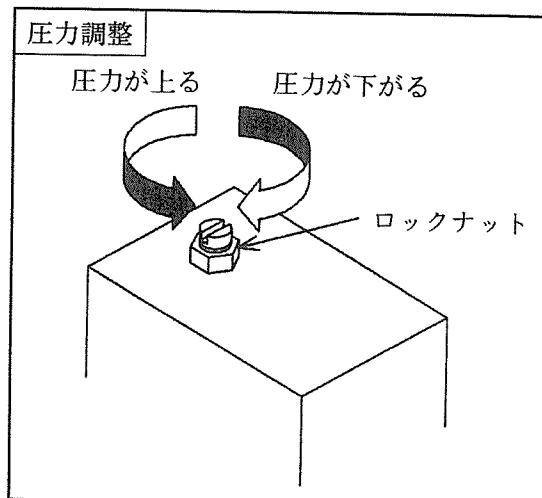
圧力を一定の範囲で保ち、モータを自動発停させるスイッチです。

0.98MPa でモータが停止し、0.78MPa でモータが回転し圧縮運転を始めます。この繰り返し運転ができず、0.2MPa の圧力差がないとき、また 0.2MPa 以上あるときは圧力調節ねじを調整してください。



0.98MPa になってもモータが停止しないときは、圧力調節ねじをロックナットを緩めて右に回してください。

0.98MPa 以下で停止するときは、左に回して下さい。



注意

0.98MPa 以上で運転しないでください。
モータの損傷の原因となります。

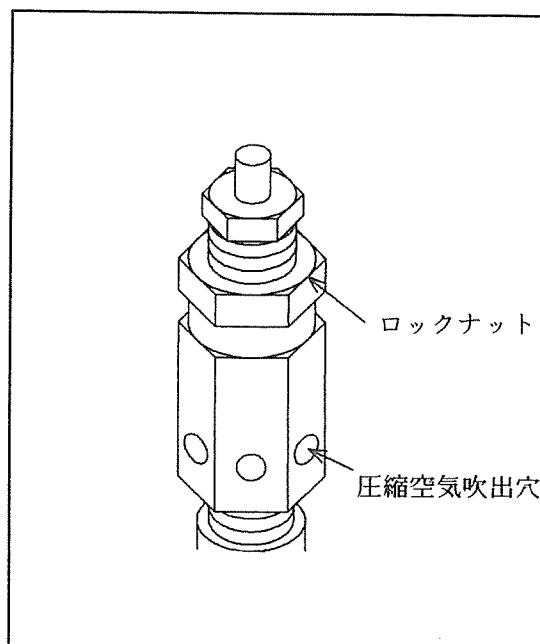
5. 安全弁

安全弁は空気圧縮機・モータの損傷、空気タンクの破裂から守る大切な安全装置です。

GND 形ですと 0.76MPa

GN・GH・Y 形ですと 1.08MPa

以下で安全弁が作動することを確認してください。安全弁の調整を必要とする場合は、指定サービス店・特約店・販売店又は当社営業所にお問い合わせください。



危険

安全弁は必ず、規定圧力内で吹き出すように点検してください。

モータの損傷だけでなく、空気タンクの破裂につながり、重大なケガ・死亡の原因につながります。

定期点検基準表

1. コンプレッサの性能・寿命を維持し、長時間良好な状態で運転するには保守点検を充分に行うことが必要です。
2. 点検時期はコンプレッサの使用状況、取扱い方法などにより異なり、一概には決めにくいものですが、一応の目安として下表に示します。
使用時間、運転時間のいずれか一方を点検時期の計算値として御考慮ください。
3. 空気タンクが第二種圧力容器に該当するコンプレッサを使用される方は、1年以内ごと1回、自主検査を行いその記録を3年間保存してください。

点 検 個 所	点検事項	使用期間 運 転 時 間		毎 日	半月ごと	1ヵ月ごと	2ヵ月ごと	3ヵ月ごと	6ヵ月ごと	1年ごと	2年ごと	備 考
		使用開始前	使用中	使用後	100時間ごと	200時間ごと	400時間ごと	600時間ごと	1200時間ごと	2400時間ごと	4800時間ごと	
油 面 計	油量点検・補給	○										
異常音・異常振動	点 検		○									
空 気 タ ン ク	ドレン抜き			○								
空 気 タ ン ク	清 掃									○		
吸 込 ろ 過 器	清 掃					○						適宜交換して下さい。
V ベ ル ト	張力点検・張り調整				(第1回目) ●				(第2回目) ○	▲		油消費量の増加および異常な効率の低下がなければ延長しても差しつかえありません。
潤 滑 油	全 量 交 換				(第1回目) ●		(第2回目) ●		(第3回目以降) ○			
ボルト・ナット	ゆるみ点検・増締め					(第1回目) ●				(第2回目以降) ○		
フェザー弁セット	清掃・カーボン除去							○		▲		
アンローダパイロット弁	作 動 確 認		○									
	分 解 ・ 清 掃								○			
圧力スイッチ	作 動 確 認		○									
安 全 弁	作 動 確 認								○			
空 気 洩 れ	点 検		○									
ベ ル ト 車	ゆるみ点検					○						
モータプーリ	ゆるみ点検					○						
圧 力 計	点 検 ・ 矯 正									○		
空気圧縮機全体	分解・清掃・整備									○		
シリンダ内径	摩耗量点検										○	
ピ 外 径	摩耗量点検										○	
ス 圧力リング	摩耗量点検										○	
	摩耗量点検										○	
ン ピン外径	摩耗量点検										○	
	摩耗量点検										○	
クランク軸ピン外径	摩耗量点検										○	

表中 ●印は、初めて運転する場合に限ります。

▲印は、部品の交換時期です。

不 調 診 断

(1) 圧 縮 機

状 況 原 因 処 置

異常音・異常振動

弁プレート取付ねじのゆるみでプレートが躍る
クランクピン軸受摩耗
ベルト車締付ボルトのゆるみ
ベルトの芯がでていない
各締付部ボルト・ナットのゆるみ
玉軸受に異物混入または摩耗

ねじを締付ける
交換する
ボルトを締付ける
ベルトを平行に張りなおす
各部点検し締付ける
分解洗浄または交換

吐出し空気の過熱

吐出し弁プレートの損傷
吐出し弁プレートにカーボン付着
ベルト車逆転

交換する
分解・掃除
配線手直し、正転とする

圧力が上らない
圧力上昇が遅い

吸込・吐出し弁プレートの漏えい又は損傷
締付部からの漏えい
圧力計の故障
アンローダ、圧力スイッチの操作・調整不良
Vベルトのゆるみ

交換する
締付ける
圧力計交換
分解掃除、調整、交換
規定の張りに直す

潤滑油がなくなる

ピストンおよびシリンダ摩耗
圧力リング、オイルリングの摩耗

ピストンおよびシリンダ交換またはオーバーホール
交換する

運転中の急停止

摺動部の焼付き
電圧降下
圧力の異常上昇による過負荷
部品の破損
電磁開閉器のサーマルリレー作動

焼付部品の交換
電源の点検
アンローダ、圧力スイッチを調整
破損部品の交換
上記原因を点検

(2) アンローダパイロット弁

状 況	原 因	処 置
ピーと音を発し、完全にアンロードしない	吐出し弁プレート不良による逆流	交換する
	アンローダピストンキャップよりの空気漏れ	アンローダピストンキャップ取付ボルトを締付ける
	銅管袋ナットゆるみによる空気漏れ	銅管袋ナットを締付ける
	アンローダピストンの当り面にゴミかみ込み	分解・掃除
		傷があれば交換
完全にアンロードしない	プレート押え摩耗	アンローダアッセンブリ交換
規定圧力で作動しない	調整ねじのゆるみ	圧力調整ねじを調整する
		差圧調整ねじを調整する

(3) 圧カスイッチ

状 況	原 因	処 置
復帰圧で電動機が唸り回転できない	吐出し側に圧力がかかっている	吐出し側の圧力を完全に抜くため リリース心棒とリリースバルブ調整ねじのすきまを調整する
圧力上昇が遅い	リリース心棒とリリースバルブ調整ねじの隙間がなく、常時心棒が押されてリリースバルブから空気が抜けている	適正すきま 0.8～1.0mm に調整する
停止時リリースバルブより空気が吹き出て止まらない	逆止め弁の破損	逆止め弁交換
	逆止め弁にゴミかみ込み	逆止め弁の分解・掃除

※部品の交換は明治純正部品を必ずご使用ください。

圧力制御機器の交換後は必ず、規定圧に調整確認して下さい。

仕 様

アンローダ式コンプレッサ本体仕様（形式GN形）

形 式	出 力 kW	シリンダ径×行程×シリンダ数 mm	クランク室内の上限油量 L	作 動 圧 力 MPa	質 量 kg
GNO-1C	0.75	65×40×1	0.23	0.59～0.69	17
				0.78～0.98	

圧力スイッチ式コンプレッサ本体仕様（形式GH・Y形）

形 式	出 力 kW	シリンダ径×行程×シリンダ数 mm	クランク室内の上限油量 L	作 動 圧 力 MPa	質 量 kg
GHO-1C	0.75	65×40×1	0.23	0.78～0.98	17
GHO-2D	1.5	65×70×1	0.4		24
GHO-3D	2.2	65×56×2	0.58		31

コンプレッサ仕様

形 式	出 力 kW	コンプレッサ 本 体 形 式	作 動 圧 力 MPa	回 転 速 度 min ⁻¹	吐出し 空気量 L/min	タンク 容 積 L	空 気 取 出 口 B	全幅×奥行×高さ mm	質 量 モータ付 kg
GN-08D	0.75	GNO-1C	0.78～0.98	1040	80	38	1/4B×1	907×370×674	58
GH-08D		GHO-1C						907×370×653	59
GND-08C		GNO-1C	0.59～0.69	1100	100	14		793×382×546	56
GH-15 Y-15	1.5	GHO-2D	0.78～0.98	975	160	71	1/4B×1	1130×394×758	98
GH-22 Y-22	2.2	GHO-3D		985	245	80	1/4B×2	1227×394×710	115

この仕様は予告なしに変更することがあります。

サービスと保証について

●保証について

コンプレッサの無償サービス期間は、本機を出荷した時点から 12 ヶ月又は 2400 時間のいずれか早い方とします。

ただし 期間中でも需要家側の取扱上の過失や、取扱説明書に記載してある過酷環境設置場所（異常温度・粉じんが多い等）で使用された場合や、日常点検・定期点検・整備を怠った場合、本機を無断で改造された場合、故意に起こした事故、故障については保証いたしません。

また、消耗品や交換の必要な部品は明治純正部品をお使いください。純正部品以外のものを使用して故障した場合、クレームの対象になりません。

●本保証は、日本国内で使用される場合に限り適用されます。

●製品の故障又は不具合に伴う二次補償はいたしません。

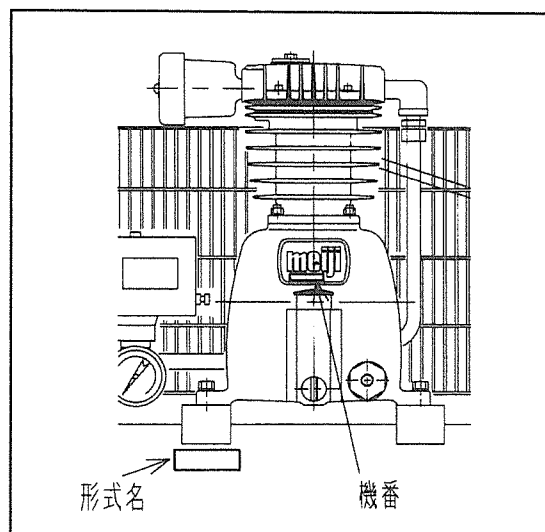
重要な設備で使用される場合は予備機又は代替機のご用意をお願いします。

●アフターサービスについて

機械の調子の悪いときに点検・処置しても、なお不具合があるとき、不審な点及びサービスに関しては、指定サービス店・特約店・販売店又は当社営業所にお問い合わせください。

連絡していただきたい内容

- ・形式 ・製造番号
- ・故障内容（できるだけ詳しく）



メモ

明治コンプレッサ指定サービス店
(2010年08月現在)

地区	指定サービス店名	所在地	TEL	地区	指定サービス店名	所在地	TEL
北海道	(株)キョーワコーポレーション	札幌市東区	(011) 741-0167	近畿	(株)小西エア・サービス	奈良県磯城郡	(0744) 33-2338
	旭機器工業(株)	旭川市	(0166) 61-4615		中嶋空圧(株)	京都市伏見区	(075) 643-0545
	旭機器工業(株)	札幌市白石区	(011) 811-8858		中嶋空圧(株) 滋賀営業所	滋賀県草津市	(077) 567-7997
	旭機器工業(株)	苫小牧市	(0144) 55-0444		ゴクタ工業	和歌山県和歌山市	(073) 462-3036
	旭機器工業(株)	帯広市	(0155) 34-6078		(有)ハナミ工業	大阪府松原市	(072) 334-7675
東北	(株)武石商会	宮城県仙台市宮城野区	(022) 252-2237	山陽・山陰・中国	松本コンプレッサー	大阪府八尾市	(072) 994-8873
	日機産業(株)	福島県いわき市	(0246) 53-5777		(有)三和コンプレッサー工業所	大阪市淀川区	(06) 6309-7341
	(株)富士メンテナンス	山形県天童市	(023) 654-1520		(株)ヤマコン	大阪市西淀川区	(06) 6473-9771
	郡山日機産業(株)	福島県郡山市	(024) 959-3741		(株)阪神工作所	大阪市福島区	(06) 6451-4501
	(有)穴山電機工業所	秋田県秋田市	(018) 845-1434		宝塚コンプレッサー商会	兵庫県宝塚市	(0797) 81-0092
	(有)サンキョウサービス	福島県福島市	(024) 548-6422		福西機械	兵庫県神戸市灘区	(078) 871-8541
関東	(有)栃木エアテックサービス	栃木県宇都宮市	(028) 665-3531	四国	(有)マキエアサービス	京都府福知山市	(0773) 33-2851
	(株)アズマ	群馬県前橋市	(027) 251-5724		(株)明治コンプレッサー大阪販売所	大阪市北区	(06) 6372-3041
	アライ産機サービス	群馬県高崎市	(027) 371-4787		(株)澤村エアサービス	大阪府松原市	(072) 330-3261
	両毛空圧(株)	群馬県館林市	(0276) 74-5190		姫路コンプレッサ	兵庫県姫路市	(079) 253-1725
	(有)明治産機	埼玉県草加市	(048) 922-2240		(株)フジカワキカイ	兵庫県姫路市	(079) 224-7593
	(株)天昌機電社 君津	千葉県君津市	(0439) 55-5512		(株)日章屋	兵庫県姫路市	(079) 253-3158
	(株)天昌機電社 市原	千葉県市原市	(0436) 23-1088		(株)明 空	岡山県岡山市	(086) 278-9595
	(株)明治京浜サービス	東京都墨田区	(03) 5610-5931		橘高工業(株)	広島県福山市	(084) 951-2828
	相模エアサービス	神奈川県相模原市	(042) 747-0706		重光機器サービス	鳥取県米子市	(0859) 29-9935
	(有)猿田工機	茨城県日立市	(0294) 53-9503		山陽空機サービス	広島県広島市安佐南区	(082) 879-7292
甲信越	(有)芝野電機	長野県岡谷市	(0266) 22-2086	九州・沖縄	(有)広亜工業	広島県広島市西区	(082) 238-0240
	(有)上田機工	長野県上田市	(0268) 35-1149		(株)四国メイジエアシテム	香川県高松市	(087) 844-8123
	(有)田中鉄工所	新潟県三条市	(0256) 32-0473		(有)四国エアサービス	香川県高松市	(087) 886-3832
	(株)五十嵐工具(サービス部)	新潟県長岡市	(0258) 32-4314		東予エヤー(有)	愛媛県西条市	(0898) 66-2489
	(株)工電社	新潟県燕市	(0256) 63-9559		(有)細川電機商会	高知県高知市	(088) 873-3910
	ニイガタメイジテクノ	新潟県新潟市	(025) 284-9680		(有)四国空圧機工業	徳島県徳島市	(088) 669-1929
東海	東機工(有) サービス工場	静岡県浜松市	(053) 411-3200	九州・沖縄	(有)ミタカ機工	福岡県大野城市	(092) 571-1595
	(株)モリサービス	静岡市駿河区	(054) 258-3654		(有)マシンサービス	福岡県福岡市東区	(092) 621-1510
	(株)モリサービス東支店	静岡県沼津市	(055) 927-3111		エアワーク	福岡県久留米市	(0942) 33-0163
	(株)モリサービス浜松支店	静岡県浜松市	(053) 414-1530		(有)原 電機	長崎県長崎市	(095) 845-5027
	駿河商事	静岡県富士市	(0545) 36-2135		松尾機工	佐賀県佐賀市	(0952) 22-9157
北陸	(有)北産機器サービス	石川県金沢市	(076) 257-0331	九州・沖縄	大分コンプレッサー(有)	大分県大分市	(097) 551-4470
	(有)中部圧縮機サービス	石川県金沢市	(076) 268-3232		(有)カタヤマサービス	熊本県熊本市	(096) 357-3845
	(有)トナミ空圧	富山県礪波市	(0763) 32-4268		(有)コザモートル	沖縄県うるま市	(098) 937-5284
	桃井工業所	富山県高岡市	(0766) 31-2728		多賀邑鉄工所	熊本県山鹿市	(0968) 46-3969
	(有)中山商会	福井県鯖江市	(0778) 51-1193		大広電機	鹿児島県鹿児島市	(099) 248-6911
	(株)明治コンプレッサー城北サービス	名古屋市北区	(052) 913-0009		宮崎整機	宮崎県宮崎市	(0985) 52-3821
中部	(有)ワケ機械	名古屋市中川区	(052) 353-6565				
	(有)磯田機械サービス	愛知県豊橋市	(0532) 41-0155				
	スミ電機工業(株)	愛知県西尾市	(0563) 56-8020				
	(有)清水機械	岐阜県大垣市	(0584) 91-7353				

お客様メモ

下記に御記入し、ご活用下さい。

形 式	
製 造 番 号	
個別検定合格番号	
ご 購 入 年 月 日	年 月 日
ご使用開始年月日	年 月 日
ご 購 入 先	TEL

営業品目

- | | | |
|--------------------|--------------|-------------|
| ★小型往復空気圧縮機 | ★パッケージコンプレッサ | ★エンジンコンプレッサ |
| ★スクリュウコンプレッサ | ★ブースタコンプレッサ | ★空気タンク |
| ★オイルフリースクロールコンプレッサ | ★スプレーガン | ★付属空気機器 |
| ★自動塗装装置 | ★塗装排気装置 | ★乾燥炉 |

事業所一覧

- | | | |
|-------------|-----------|--|
| ・ 本 社 | 〒532-0027 | 大阪市淀川区田川 2 丁目 3 番14号
TEL.06 (6309) 1222 FAX.06 (6308) 7047 |
| ・ 東 京 支 店 | 〒135-0042 | 東京都江東区木場 2 丁目 5 番 7 号 KHビル内5階
TEL.03 (3642) 0701 FAX.03 (3642) 3200 |
| ・ 名 古 屋 支 店 | 〒468-0045 | 名古屋市天白区野並 2 丁目345番地
TEL.052 (896) 1921 FAX.052 (896) 6831 |
| ・ 大 阪 支 店 | 〒532-0027 | 大阪市淀川区田川 2 丁目 3 番14号
TEL.06 (6309) 8151 FAX.06 (6309) 8157 |
| ・ 広 島 支 店 | 〒731-0137 | 広島市安佐南区山本1-9-6
TEL.082 (832) 2258 FAX.082 (832) 2289 |
| ・ 福 岡 支 店 | 〒816-0921 | 福岡県大野城市仲畑 1 丁目9-3
TEL.092 (587) 1247 FAX.092 (502) 6129 |
| ・ 岡 山 営 業 所 | 〒703-8214 | 岡山市東区鉄160番地
TEL.086 (279) 2853 FAX.086 (279) 6460 |
| ・ 静 岡 出 張 所 | 〒422-8035 | 静岡市駿河区宮竹2-18-1
TEL.054 (236) 5688 FAX.054 (237) 6639 |
| ・ 金 沢 出 張 所 | 〒920-0062 | 金沢市割出町646 百山ビル内
TEL.076 (238) 6201 FAX.076 (238) 9662 |
| ・ 岡 山 工 場 | 〒703-8214 | 岡山市東区鉄160番地
TEL.086 (279) 1251 FAX.086 (278) 3798 |

ホームページアドレス <http://www.meijiair.co.jp/>